

短大 一般入試

出題傾向

解答時間は 60 分。全て五者択一式のマークシート形式である。本日程は大問が 3 つある。

大問 $\square$ 一、 $\square$ 二は読解問題であるが、大問 $\square$ 三では、いわゆる知識問題が出題されている。こう

した大まかな区別をすることはできるが、大問 $\square$ 一・ $\square$ 二でも漢字問題や知識が必要な問題が

出題されることもあるので、大問 $\square$ 一、 $\square$ 二、 $\square$ 三問わず、語彙力があれば解ける問題は確実に得点できるようにしておきたい。

大問 $\square$ 一は、猪木武徳『デモクラシーの宿命——歴史に何を学ぶのか』からの出題で、約 2300 字である。大問 $\square$ 一では、傍線部や本文の説明問題、本文内容合致問題、空欄補充問題、脱文挿入問題などが出題されていた。

大問 $\square$ 二は、片山杜秀『歴史という教養』からの出題で、約 2000 字であった。大問 $\square$ 二では漢字問題、傍線部や本文の内容・理由説明問題、本文内容合致問題、空欄補充問題などが出題されていた。

大問 $\square$ 三は、既に述べたように、いわゆる知識問題が出題されていた。具体的には誤字を含む文を選ぶ問題、誤った読み方を選ぶ問題、慣用句に関する問題、言葉の使い方に関する問題、同義語や対義語に関する問題、漢字問題などが出題されていた。

学習アドバイス

年度によって出題傾向が変わる可能性はあるが、語彙力が必要な問題が多く出題されている。よって、1 日に 10 分でいいので漢字問題を解くようにしたい。小さな積み重ねを毎日続けて、語彙力を確実に増やしていきたい。同時に、知らない言葉があれば調べて覚えるようにしたい。そうして語彙力をつけていくことが、合格への近道である。

次に、読解問題の対策について述べる。比較的読みやすい文章から出題されているとはいえ、思い込みで選択肢を選ばないようにしたい。現代文で合格点を取るには、本文を理解することも重要だが、設問や傍線部の視点で本文を捉え直すことも重要である。よって、設問や傍線部の言いたいことは本文のどの辺りを使えば理解できるのか、といった視点を忘れないようにしたい。本文に書いてある表現であっても、設問や傍線部が言いたいことだとは限らないので、注意が必要である。現代文は、注意点を意識することで伸びる科目であるの

で、今解いている設問・傍線部が本文のどの範囲を聞いているのかを意識しながら解く習慣をつけてもらいたい。もちろん、標準レベルの問題集を買って、多くの文章や問題に触れておくことも効果的である。